

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770104848		
法人名	社会福祉法人南の風		
事業所名	グループホーム アル・ソーレ		
所在地	堺市堺区甲斐町西2丁1-15		
自己評価作成日	令和01年 7月 15日	評価結果市町村受理日	令和01年8月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhouyou_detail_022_kanistrue&logsvofCd=2770104848-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪市東成区中道3-2-34 JAM大阪2F		
訪問調査日	令和01年 8月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にもある、その人らしさを理解する努力を重ね、アセスメントや普段の関わり、利用者・家族とのコミュニケーションの中での気付きを共有し、気持ちに寄り添える援助が出来ればと思っています。又、複合施設ならではの協力体制で、単独ではなかなか難しい事も柔軟に対応でき、幅のあるサービスで利用者、家族の楽しみと安心に繋がっていると感じています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

病院を運営する理事長の、「認知症になっても安心できる居場所」への思いが込められた、社会福祉法人が運営するグループホームです。交通の便のよい住宅街にあり、特養、デイサービスを併設した7階建ての複合施設の5・6階にあります。広い共有空間を持つフロアには、和洋の居室があり、お洒落で上品なインテリアと職員の工夫による掲示物が落ち着いた雰囲気を出しています。「その人らしい人生を全うしていただけるよう、私たちはプロとしてお手伝い致します」を理念とし、職員は利用者の「その人らしさ」を常に考え支援しています。また、「利用者にとって家族に勝るものはない」と、家族の絆を大切にし、利用者の安心な暮らしに繋がっています。複合施設ならではの協力体制や、管理者が「うちの自慢はスタッフ」と職員の頑張りを承認する職場環境は、職員の士気を高め定着率の高さに現れています。「アル・ソーレ(イタリア語でひだまり)」の名前の通り利用者中心の笑い声が聞こえてくる温かい雰囲気の家庭的なグループホームです。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(2ユニット共通)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしい人生を全うしていただけるよう、私たちはプロとしてお手伝いいたします」を理念に掲げ、地域に支えていただき、又、地域に貢献できるような取り組みを他サービスと協力して取り組んでいます。	法人全体の理念「その人らしい人生を全うしていただけるよう、私たちはプロとしてお手伝い致します」をもとに、「利用者と家族が共に過ごす楽しい時間のお手伝い」とグループホーム独自の理念をみんなで考え掲げました。理念は職員間に浸透し、実践されています。また、月間の目標を掲げ、より理念の具体化を図っています。今月の目標は「丁寧な言葉づかい」でした。理念は、利用者や家族、地域住民の目に触れやすいよう、手書き文字で記しインテリア風に掲示しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動のふれあい喫茶・いきいきサロンへの参加や協力。施設イベント時には地域からボランティアのお手伝いを頂いています。近隣保育園との交流もその都度行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	堺市堺区のグループホーム連絡会に所属し、認知症支援部会で市・地域包括・保健センター・他事業所などとの協力で啓発活動に参加しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や地域包括との現状報告、取り組みや課題などでのアドバイスをいただくなど、参考にさせていただいています。又、家族同士の交流の場にもなっています。	運営推進会議は2か月に1回、年6回開催しています。利用者、家族、地域住民代表、地域包括支援センター職員、ホーム職員等がメンバーとなり話し合っています。できるだけ多くの人が参加できるように、開催日の曜日や時間を変則にする工夫をしています。会議では、ホームの活動状況や取り組み等を報告し、参加者から意見・評価・助言を得て、ホームの運営に活かしています。参加者からは意見、要望も活発に出て、終わった後の雑談が延々と続く雰囲気の場合です。	

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えなが ら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や連絡会などでの相談、情報交 換をするなど、又、地域の見守りネットにも協力 しています。	市職員とは連携をとり、情報交換等で協力関係を築く ように取り組んでいます。事故報告も速やかに行って います。市グループホーム連絡会や区グループホー ム連絡会に所属し、認知症の啓発活動にも積極的に 取り組んでいます。連絡会での災害に関する取り組 みでは、市の担当部署と協議を重ねる機会があり、市 との連携がより密になりました。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス 指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指 定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正 しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をし ないケアに取り組んでいる	施設内や法人全体の勉強会などを通じてその 都度職員間での確認。意識の統一を図ってい ます。鍵をかけない事でのリスク管理について は、その都度職員間で見守りの工夫を検討して います。	法人全体で身体拘束・高齢者虐待防止に関する勉強 会を実施しています。身体拘束はありません。言葉で 行動を制限してしまうスピーチロックに関しても職員は しないよう、意識してケアにあたっています。各フロア の入り口、エレベーターなども自由に出入りでき、ドア の開閉時に音が鳴る工夫をしています。居室から ベランダへも自由に出入りでき、閉塞感を感じさせな い自由な暮らしを支援しています。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学 ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が 見過ごされることがないように注意を払い、防止に努め ている	施設内や法人全体の勉強会などを通じて職員間で 確認。意識の統一を図っています。又小さなことから 様々なリスク管理につなげる意味でも、いつの間に かの打ち身も事故報告としてその都度挙げていま す。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後 見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関 係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在数名の利用者がそれぞれのニーズで成年後見 制度を利用されています。家族からの相談なども含 め、NPO団体からの協力をいただき、その都度指 導、助言をいただいています。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族 等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・ 納得を図っている	重要事項・契約書などの書類は、事前にお渡しし、 当日にも再度説明と質問を受け理解と協力を得てい ます。利用に対して、家族・利用者の不安を少しでも 軽減できるよう、ゆっくりとお話を聞かせていただい ています。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のかかわりの中で、気軽に相談していただけるよう、面会時には近況報告を兼ねてお声掛けをさせていただくなど話しやすい、聞きやすい環境に心掛けています。	「利用者と家族が過ごす楽しい時間のお手伝い」とホームの理念に掲げ、「利用者にとって家族に勝るものなし」の考えのもと、利用者と家族の関係を大切にした家族支援が行われています。家族の面会は多く、面会時にはその都度声かけし利用者の様子を伝えたり意見や要望を聞いています。職員が忙しそうにしていたら家族から声をかけ難いので、家族の顔を見たら職員から先に声をかけることも心がけています。毎月、担当職員が利用者の暮らしぶりや状況を伝える「利用者連絡票」は、家族から「ホームでの様子がわかって嬉しい」と好評です。納涼祭や作品展、クリスマス会などのイベントには多くの家族が参加し、家族間の交流も行われています。建物の7階にある多目的スペースで、利用者と家族が自分たちだけの大事な時間を過ごしてもらうこともできます。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のフロア会議を行う際は、事前に議題を集め必要に応じて家族の意向を確認。又、申し送りの場を活用し、急な事態にも相談、対応できるように努めています。	毎月の会議で職員の意見を出し合っています。会議の開催にあたり事前に、「困っている内容や現状、解決すべき課題」等出し合います。管理者は、会議のほか、日常的に職員の意見や要望を聞いています。管理者や主任は、職員の頑張りに感謝し、職員は管理者や主任の職務に敬意を払い、お互いの信頼関係が築かれています。複合施設ならではの協力体制や、職員の自主性が尊重される職場環境は、職員の士気を高め、離職者も少ない状況です。職員の工夫をホーム内のあちこちに見ることができます。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	講師を招いての勉強会や、施設又、法人内の事例発表会など、職員のニーズや必要性など内容に盛り込んでいます。職員面談などを通じて、自己評価も含めたコミュニケーションを図っています。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や能力に合わせた研修の参加と、施設内の勉強会委員を中心に、計画を立て、スキルアップに取り組んでいます。又、資格取得に対して、講習会を開くなど、それぞれの意欲にサポートできるよう努めています。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会などへの参加で情報交換や取り組みを参考にさせていただきながら、自施設のサービス向上に役立てています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に対しての理解、納得から利用者・家族の不安や疑問に対してゆっくりと話し合いの場を設け、家族にできる限りの協力で寄り添っていただきそれぞれのケースによっての入居を提案させて頂いています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要に応じた臨機応変な対応で少しでも安心して過ごしていただけるように状況に応じた援助を行っています		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズの把握に努め、かかりつけの病院やドクターなど、これまでのなじみの関係を大切にしながらいただけるように家族の協力をいただきながら大きな変化がない様に努めています。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすということを常に心がけ、日々の関わりの中で自己選択・決定の機会を多く持つように心掛け、興味を持っていただけるような取り組みに心掛けています。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も共に暮らすというかわりの中でホームの余暇活動など季節行事の参加、食事介助・衣類整理等介護に参加しやすい雰囲気作りにも心がけています。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を頂きながら、今できる事を大切に という事を心掛けています。	職員は、これまでの馴染みの関係を少しでも継続することが利用者に大切なことと理解し、支援に努めています。知人の訪問を受ける利用者、馴染みの美容室に行く利用者等があり、少しでも関係が長く継続するよう支援しています。定期的に参加する地域主催のふれあい喫茶では、新しい関係もできました。7階の多目的スペースを家族や馴染みの人との交流の場として開放しています。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの認知症状の中で、集団生活のストレスは所々で考えられるものの、活動などを通じて自然なかかわりが持てるように工夫しながら取り組んでいます。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係施設、病院など、サービスが移っても面会に訪問させていただく等しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にお預かりさせて頂いた情報をその都度振り返り、日々の生活での気づきや、利用者の想いに寄り添えるように努めています。	入居時に利用者・家族から生活歴や暮らし方の希望・意向を聞いてフェイスシートに記録しています。「その人らしさ」を常に考え、利用者の意向や希望を汲み取ることを心がけています。離職者が少なく、利用者と職員の馴染みの関係ができていることも、質の高い個別支援に繋がっています。	個別記録に記入している職員の「気づきや発見」に、その時々の利用者の言葉や表情を、より加えてみてはいかかでしょうか。気づきや発見が、職員間に広がり、さらなる利用者の「その人らしい暮らしの実現」に繋がることを期待されます。
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントの一部をお渡しし、なじみや好みなど、家族間で相談しながら記入していただけるようにしています。その際にはなぜその情報が必要なのか等も説明を加えるように心掛け、理解を求めています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中での思いや変化に対して気づきを大切に、記録に残し、情報を共有しながら、利用者の状態把握に努めています。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前の情報収集をフロア会議の中で意見をまとめ、家族にもその都度確認し、思いや意向を汲み取りながら計画作成に反映させるよう努めています。毎月を送る手紙も活用しています	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。基本は6ヶ月毎に見直し、状態に変化があった場合は随時見直しています。モニタリングは毎月行っています。日常の関わりや家族との会話の中からの気づきや発見も介護計画に反映するよう努めています。計画作成担当者は、計画作成にあたり「臨機応変」を大切にし、介護計画を基本に、「その時・その時の利用者にベストなケア」ができるように職員に伝えています。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりの中でみられる変化に注意し、言動、行動、体調の変化など、皆で記録に残し、共有しながら必要な対応が素早くできるように心掛けています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設内の協力と、関係施設などとも協力体制ができており、必要に応じて柔軟な協力を受けることが出来ています。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者のニーズに合わせた対応を行っています。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の定期的受診、緊急時の対応、その他必要に応じた医療を受けるにあたっての相談と確認を行い、家族の協力のもと、かかりつけ医・専門医との情報の共有。連携を大切にしています。	かかりつけ医の受診については本人や家族の意向を尊重し、入所以前からのかかりつけ医を希望する場合は家族の協力を得て行っています。とくに専門医や脳外科の受診の際には、ホームで連絡票を作成し積極的に情報提供を行っています。ホーム内では母体の医療機関から週3～4回の内科往診を行う他、歯科や皮膚科の定期的な往診も実施しています。	

己 自部 外	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師は共に介護にも参加してくれ、必要に応じた処置や状態の確認を医師との連携のもと行ってくれており、職員も安心して相談できています他部署やかかりつけ医の看護師とも連携し支えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こまめな面会と、看護、医師に状態を確認しながら退院のめどがたてば、相談員・看護・医師・リハビリスタッフ等必要な情報を整理し、早期に退院できるように受け入れ態勢を整えるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には看取りに関する指針を説明。実際必要な状態になれば、家族・医療・栄養などと連携し、援助の方向性をいくつか提案。意向の確認を行い、考えられるリスクや状況等その都度相談しながら、方向性の変更に対しても柔軟に対応できるようにより良い方向で支援できるように努めています。	看取りについては、法人の母体が医療機関で館内に特養も併設されているため、積極的には行っていますが、終末期支援の体制を整え、本人や家族の希望があれば対応しています。利用者には入居時にホームの方針を説明し、同意書を交わしています。近年は年1～2回の看取り実績があります。また、利用者や家族と方針を決めた後でも、状況に応じて都度、意向を確認し対応しています。看取りを行う場合は職員の不安がないよう、万全のバックアップ体制で臨んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会や講習で心肺蘇生法やAEDの使用方法的の確認。急変時のマニュアル確認をその都度行い、実際の対応に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設で災害対策委員会を設置、マニュアルの追加、備蓄の確認、訓練の計画を行っています。火災に関しては年2回うち1回は消防立会い訓練。又日中想定・夜間想定を取り入れた計画としている。又停電時の確認や市の危機管理室の情報をもとに地震に対してなどの対策を確認。更新している。運営推進会議でも地域の取り組み等雑談レベルではあるが施設の取り組みを伝えている。	災害別のマニュアルを整備し、市や地域住民とも連携しながら各種災害に備えています。火災対策では消火器や排水ホース、自動火災報知器やスプリンクラー等も完備し、年2回行う避難訓練のうち、春は消防署立ち合いのもとに実施しています。備蓄面ではコンロやおむつを備え、水や食料は法人のみならず、日常交流している近隣の保育園の分まで確保しています。	

己 自部 外	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴など、それぞれの状態に配慮しながら、希望に応じて同姓介助を行い、対応。 サービスマナー・個人情報保護等の勉強会やマニュアルの確認で意識の統一に努めています。	一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮したケアや言葉かけについては、接遇や入浴・排泄の業務マニュアルを備え、繰り返し勉強会等を開いています。職員の離職者が少ないので、多くの勤続年数の長い職員がケアにあたっていますが、「日常が慣れ合いにならない」ように心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイムの飲み物や、おやつバイキングなど生活のちょっとした場面でも自己選択・自己決定出来る様に意識して取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	毎日の予定を固めず、その日その時の職員の人数、利用者の体調、天候等臨機応変に出来る様心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お出かけ、行事等には違った気分で参加できるように、化粧や浴衣の支援、おしゃれ出来る様に援助しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に嗜好・アレルギー・食事形態を確認、朝はパンかメニュー通りにするかの相談。施設厨房の協力で状態に応じた形態援助が来ています。又、家事動作も片付け中心に利用者の意欲に応じて参加して頂いています。	食事時はどっと笑い声も上がるほど賑やかです。昼食時には利用者の横で食事介助をする職員も、同じ給食を食べています。給食はご飯のみユニットのキッチンで炊き、副食は管理栄養士のいる法人の併設特養で作っています。刻み食やミキサー食、アレルギー食にも対応しています。おやつは市販品の他、レクリエーションとしてホーム内で利用者と一緒に手作りしています。また、ホームでは給食委員会を設置し、利用者や職員から食事の感想をリサーチしてメニューや味の向上に努めています。月1回提供するイベント食も、この委員会で話し合われています。	

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がたてた献立のもと、摂取量の確認を行い、栄養・家族・医療との連携で必要な栄養補助や形状機能に応じた工夫。健康状態に対しての臨機応変な援助を行っています	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシやガーゼなどの道具を使い分け、利用者に応じた援助を行っています。必要に応じてと希望者は毎週金曜日の歯科往診時に口腔チェックと必要な治療を行っている。その際にそれぞれに応じたアドバイスをいただいています	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、定期と随時、必要な排泄用品で援助を行い、状況を記録。可能な限りトイレに座る事を大切に援助しています。	日中はほとんどの利用者が、布パンツかリハビリパンツを着用しトイレで排泄しています。職員は排泄記録を付け排泄パターンを把握して、さり気なく声かけをしてトイレに誘導し、見守りや介助を行っています。夜間は熟睡できるよう、トイレ排泄を希望する利用者を除いておむつ対応をしています。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態把握に努め、情報を整理し医師に相談し指示やアドバイスを頂く。又家族・栄養課とも協力し、オリゴ糖・等も活用。様子を見ています。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日でも、午前でも午後でも臨機応変に入れる準備があります。拒否されることが多い中でも、3日に1回は必ず。を目標に、午前ダメなら午後から、今日がダメなら明日といったように援助しています。	時間や順番を決めず、臨機応変に対応する中で、利用者は週平均、3回入浴しています。同性介助にも対応し、季節感を楽しむ菖蒲湯や柚子風呂を実施しています。入浴を好まない利用者には、タイミングを変える他、天気や洗たくを話題にして入浴につなげたり、利用者が好みそうな掲示物で浴室に誘ったりと、などさまざまな工夫を行っています。

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない時は、共有スペースで過ごして頂いています。人の気配があると安心できるなら共用部分に用意してあるベッドで寝る時もあり。落ち着いたら自室に帰る等。それぞれのペースで過ごして頂いています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療用のファイルに内容の一覧と処方シールをまとめており、お薬手帳の役割も備えています。指示や変更も申し送りで確認。服薬確認表の活用で、服薬漏れの内容に注意。問題が発生したときには医師に確認。早期対応に努めています。又、嚥下や理解の問題で服薬しづらくなれば医師・薬剤師とも相談し薬の形状や種類の工夫等の協力も得ています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	部活動という表現を使い園芸や工作、カラオケ[合唱]など秋の作品展示に向けて、又はクリスマス会での発表に向けてといったように目標を設定し張り合いが持てるように取り組んでいます。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	介護度が重度化していく中で、利用者ごとに楽しめる内容がこなされているが、近所の散歩から車でドライブ。家族も参加できる施設全体で参加を募るバスツアー（旅行会社との企画・リフト付きバスを活用）と様々なパターンを用意出来る様に支援している。	近くの児童公園に行く他、春はお花見や土居川に架かる鯉のぼりを観るなどドライブ散歩に出かけています。年に一度、法人合同で実施するバスツアーは家族も参加でき、好評です。また、館内では、デイサービスのある1階の交流スペースに雛人形など季節の展示や、ユニットのベランダや屋上には花壇や菜園もあるため、利用者は日常的に館内での散歩を楽しんでいます。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解のもと、自己と家族責任のもとお金を手元に持っている人も多い。基本必要なものはほぼ家族が持参。居室の手の届かないところに家族が管理して外出時に持って行ける小遣い袋を置いて頂いている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1階の公衆電話は自由に使用。遠方の家族などには職員の用事のついでに利用者本人に代わる事も。希望者は携帯の用意もある。手紙を書くというのが難しい人は写真画像を添えて代筆したり工夫しています。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常の掃除に加えて、木・金曜日は衛生日とし、ゴミ箱類の洗浄や、キッチンや加湿器、その他の消毒日に充てている。室温、換気にも注意している。又壁などには利用者と職員が協力して作った季節の飾りがあり。季節ごとに一緒に作成し楽しみながら取り組んでいます。	堺市らしく「利休」や「南蛮」の意匠を取り入れた館内は、5階ユニット(ひだまり)が洋風、6階ユニット(こもれび)が和風と、趣きを変えたテイストです。共有スペースには、利用者が職員や講師の先生と一緒に制作した書やクラフト作品がセンスよく飾られ、季節感を伝えています。リビングや食堂をはじめ、どの空間も明るく清潔感にあふれています。広い廊下にはソファや電子ピアノが置かれ、ここで家族と寛いだり、ピアノ演奏を楽しむ利用者もいます。キッチン設備を備えた7階の交流スペースは、利用者の誕生会や親族の集まりにも利用されています。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが落ち着く、好きな場所で過ごせるように椅子やソファを配置。7階にも空間があり、施設の取り組みとして遠方の親せきなど大勢のお客様にも対応できるよう、おもてなしの食事会企画であれば食事の準備や出前の段取り、テーブルの配置など、軽いお茶であればその準備を自分の家でもてなすように支援できればと考えています(要予約)		
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	引っ越し時の居室のものは家族に任せています。入居時には、使い慣れた物を、なじみのある物をと、その理由と共に説明しています。	居室も5階(ひだまり)は木の温もりを取り入れた洋間、6階(こもれび)は障子のある畳間になっています。利用者は家族の協力で写真や絵画を飾ったり、テレビやソファ、文机、座卓などを持ち込むなどして、一人の時間や訪れた家族や友人と過ごすひと時を楽しんでいます。家族のいない利用者等には、居室が殺風景にならないよう、職員が造花や退所者のリサイクル家具などを活用し、工夫しています。どの部屋からもベランダに出られ、外気浴や園芸を楽しむ利用者もいます。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫次第で出来る事、という事を常に考え、説明書きを加えたり、つりさげの表示を作ったり、リスク管理では先回りして環境整備するなど心掛けています。		